

2025年度わが国貿易収支、 経常収支の見通し ～貿易収支は改善、サービス収支は赤字 拡大、経常収支黒字は過去最高へ～

一般社団法人日本貿易会 貿易動向調査委員会委員長

株式会社双日総合研究所 しらとり やすひこ
情報調査室長兼調査グループ長 白鳥 泰彦



貿易動向調査委員会は、12月6日（金）、「2025年度わが国貿易収支、経常収支の見通し」を記者発表した。同見通しは、貿易動向調査委員会傘下の貿易見通し作成専門委員会7社による商品積み上げ方式を特徴としている。当会の見通しは1974年に始まり、今年度（2024年度）で51年目となる。

I. 要旨

1. 商品別貿易の見通し（通関ベース）

● 2024年度～輸出は過去最高を更新、輸入は一般機械などの要因で増加、貿易赤字は縮小

輸出総額は2023年度比5.3%増の108兆3,880億円となり、4年連続で過去最高額となる。内訳は、輸出数量が同1.8%減少、輸出価格が同7.2%上昇。世界経済の減速により数量は減少するものの、円安の効果などにより、幅広い品目で輸出価格が上昇する。

輸入総額は2023年度比2.9%増の112兆1,220億円。内訳は、輸入数量が同0.7%減少、輸入価格が同3.6%上昇。一般機械、原料品などの要因により増加し、3年連続で100兆円超となる。

この結果、通関貿易収支は3兆7,350億円と3年連続の赤字となるものの、赤字幅は大幅に縮小する。

● 2025年度～円高により輸出・輸入ともに減少、原油価格の下落などにより貿易赤字が一段と縮小

輸出総額は2024年度比0.2%減の108兆1,920億円。内訳は、輸出数量が同2.1%増加、輸出価格が同2.2%低下。世界経済が堅調に推移する中、世界貿易は復調傾向にあるが、円高により価格は低下する見通し。

輸入総額は2024年度比3.5%減の108兆2,210億円。内訳は、輸入数量が同2.3%増加、輸入価格が同5.6%低下。国内景気の回復に伴い数量は増加。原油価格の下落に加え円高の影響もあり、価格は低下する。通関貿易収支は300億円の赤字と4年連続で赤字が継続するものの、赤字幅は一段と縮小する。

2. 経常収支の見通し

● 2024年度～貿易赤字の縮小と第一次所得収支の黒字拡大により、経常収支黒字は拡大

経常収支黒字は29兆1,620億円となり、2023年度の26兆6,400億円から拡大する。輸出が大きく増加する一方で輸入は小幅の増加にとどまるため、貿易収支の赤字は1兆7,100億円となり、赤字幅が縮小する。外国人観光客の増加に伴うインバウンド需要が増加する一方、デジタル赤字の拡大により、サービス収支の赤字は3兆7,480億円と、2023年度の2兆5,970億円に比べて約1.2兆円の拡大となる。第一次所得収支は、投資収益の改善や円安の影響を受けて過去最高の38兆6,210億円となり、2023年度に比べて約1.5兆円の上積みとなる。

● 2025年度～貿易収支が黒字転換、経常収支黒字は3年連続で過去最高を更新

経常収支は、29兆9,610億円の黒字となり、3年連続で過去最高を更新する見通し。貿易収支は、1兆8,850億円の黒字となり、2020年以来5年ぶりの黒字転換となる。サービス収支は、デジタル赤字の拡大により、赤字が4兆930億円となる。第一次所得収支は、円高の影響により、36兆2,330億円と前年から約2.4兆円の減少となるが、高水準を維持する。

Ⅱ．総括表

【通関貿易】

	2023年度 実績		2024年度 見込み		2025年度 見通し	
	(10億円)	対前年度比 増減(伸び率)	(10億円)	対前年度比 増減(伸び率)	(10億円)	対前年度比 増減(伸び率)
通関貿易収支	▲ 6,053	+16,032	▲ 3,735	+2,319	▲ 30	+3,705
輸出	102,897	(3.7%)	108,388	(5.3%)	108,192	(-0.2%)
数量要因		-2.3%		-1.8%		2.1%
価格要因		6.2%		7.2%		-2.2%
輸入	108,951	(-10.2%)	112,122	(2.9%)	108,221	(-3.5%)
数量要因		-5.2%		-0.7%		2.3%
価格要因		-5.2%		3.6%		-5.6%

【経常収支】

	2023年度 実績		2024年度 見込み		2025年度 見通し	
	(10億円)	対前年度比 増減(伸び率)	(10億円)	対前年度比 増減(伸び率)	(10億円)	対前年度比 増減(伸び率)
貿易・サービス収支	▲ 6,335	+16,842	▲ 5,457	+878	▲ 2,208	+3,249
貿易収支	▲ 3,738	+14,049	▲ 1,710	+2,028	1,885	+3,594
輸出	101,936	(2.2%)	107,178	(5.1%)	106,984	(-0.2%)
輸入	105,674	(-10.1%)	108,888	(3.0%)	105,099	(-3.5%)
サービス収支	▲ 2,597	+2,793	▲ 3,748	-1,150	▲ 4,093	-345
第一次所得収支	37,141	+1,797	38,621	+1,479	36,233	-2,388
第二次所得収支	▲ 4,167	-1,108	▲ 4,002	+165	▲ 4,063	-62
経常収支	26,640	+17,531	29,162	+2,522	29,961	+800

(注)金額は表示単位未満を四捨五入しているため計算が合わないことがある。

【前提条件】

	2023	2024	2025
世界貿易(暦年)	-0.8%	2.6%	3.1%
世界経済(暦年・実質)	3.3%	3.1%	3.1%
米国	2.9%	2.7%	2.0%
ユーロ圏	0.4%	0.8%	1.1%
アジア新興国市場及び途上国・地域	5.7%	5.2%	5.0%
日本経済(年度・実質)	1.0%	0.5%	1.1%

(注1)アジア新興国市場及び途上国・地域はIMF定義によるEmerging and Developing Asia。

(注2)上記の前提条件に加え、11月中旬の外国為替市場および原油市場の動向を参考に、円相場は2024年度149円/ドル、2025年度140円/ドル。原油入着価格は2024年度84ドル/バレル、2025年度83ドル/バレルとの前提条件を以て積み上げ作業を実施。

Ⅲ. 今回見通しのポイント

当会の見通しにおける最大の特徴は、専門委員会参加7商社が社内外の関係各所にヒアリングなどを行い、それらを商品別に積み上げて作成している点である。今回の見通しは、世界経済がデシインフレからソフトランディングに向かって推移し世界貿易は回復に向かうという潮流の中、ロシアのウクライナ侵攻の継続や中東情勢の緊迫化などの国際情勢、脱炭素を取り巻く環境の変化及びエネルギー需給動向、中長期的な産業及び貿易構造などを想定した前提条件に基づいて、作成したものである。

今後の貿易動向は、各国の政策変更、資源価格、為替相場など、国内外の要因に大きく左右されるため、見通しからの上振れ、下振れの可能性があるが、今回の見通しのポイントとしては、以下の3点が挙げられる。

- ・ 通関貿易収支における2024年度の輸出額は100兆円を超え、4年連続で過去最高を更新する見込み。輸送用機器の輸出増などが寄与。輸入は一般機械、原料品、化学製品が輸入増に寄与する見込み。2025年度は、輸出、輸入ともに円高の影響もあり、2024年度比で減少となる。
- ・ 輸出入を数量・価格に分けると、数量は輸出入共に、2024年度は減少するものの、2025年度は増加に転じる見通し。価格は輸出入共に、2024年度は円安の影響で上昇する一方、2025年度は一転、円高の影

響で低下する。為替動向に加え、エネルギー価格の影響が大きい。

- ・ 経常収支は、2024年度、2025年度ともに過去最高を更新する。貿易収支の赤字は2024年度に大幅に縮小し、2025年度は5年ぶりに黒字転換となる。デジタル赤字の拡大に伴いサービス収支の赤字幅は拡大するが、第一次所得収支は高水準の黒字を維持する。

今回の見通しでは、貿易収支（通関貿易統計ベース）の赤字は2024年度が3兆7,350億円、2025年度が300億円の見通し。貿易収支の赤字は、過去最大だった2022年度の22兆350億円をピークに、3年連続で縮小する。

輸出総額（通関貿易統計ベース）は2024年度に108兆3,880億円（前年度比5.3%増）に増加した後、2025年度には108兆1,920億円（同0.2%減）と微減となる。

2024年度の輸出額は1979年以降の比較可能な過去最高を4年連続で更新する。海外需要が全般的に軟調な中で数量ベースでは微減となるが、円安の効果により、輸出価格は押し上げられる。品目としては、輸送用機器、電気機器、化学製品などが成長を牽引する。

2025年度の輸出額は、2024年度に比べて小幅の減少となる。電気機器や食料品が増加する一方で、輸送用機器、化学製品などが減少となる。また、円高による輸出価格押し下げの影響も大きい。

一方、輸入総額は2024年度に112兆1,220億円(前年度比2.9%増)と増加した後、2025年度には108兆2,210億円(同3.5%減)と減少に転じる。

2024年度の輸入額は2023年度から増加し、3年連続で100兆円超となり、過去最高だった2022年度に次ぎ史上2位の水準となる。一般機械、原料品、化学製品、原料別製品などが増加する一方、鉱物性燃料は需要減の傾向が続く。

2025年度の輸入額は減少に転じるが、引き続き100兆円超になる見通し。円高による価格面での押し下げが予想されるものの、日本経済の回復基調の影響もあり、数量ベースでは全体としては増加に転じるため、輸入額は高水準を維持する。

2024年度の経常収支は2023年度の26兆6,400億円の黒字から増加し、29兆1,620億円の黒字となる。主な要因としては、貿易収支が2.0兆円改善することに加え、対外投融資による利子や配当の受払である第一次所得収支の黒字(受取超)が1.5兆円拡大する。

2025年度の経常収支は29兆9,610億円となり、3年連続で過去最高を更新する。貿易収支が3.6兆円改善し、1.9兆円の黒字に転換する一方、デジタル赤字の影響でサービス収支の赤字幅が拡大する。また、円高の影響で第一次所得収支の黒字幅は2.4兆円縮小するが、金額としては36.2兆円となり、引き続き高水準の黒字を維持する見通し。

IV. 主要商品別の見通し (通関ベース)

1. 輸出

◆◆◆ 2024年度 ◆◆◆

2024年度の輸出額は2023年度比5.3%増となり、4年連続で過去最高を更新する見込みである。数量・価格の内訳をみると、数量は同1.8%減と減少するのに対し、価格は円安を背景に同7.2%上昇する。

品目別に見ると、輸出額が大きい自動車などの輸送用機器が同6.6%増と堅調な増加になることが最大の要因である。自動車は上半期において認証不正問題を起因とする生産停止があったほかEUの景気低迷といった下押し要素があったものの、下半期には北米やEUなどで需要が持ち直し、全体としては堅調に推移する見込み。一方で、鉱物性燃料は国内製油所の閉鎖や一部元売りの定期修理で輸出余力が減り同20.1%減となる。また、鉄鋼は製造業や建設業などの海外需要が力強さを欠き数量が減少する見込みで金額ベースでは同1.0%減となる。2024年度は2023年度平均の1ドル=145円から一段と円安が進んだことで価格の伸びを主体に金額全体が増加する見込みとなっている。

◆◆◆ 2025年度 ◆◆◆

世界経済は堅調に推移し、世界貿易も復調に向かうが、為替が円高に反転するとの前提により、日本の輸出額は2024年度比0.2%減となる。数量・価格の内訳をみると、数量が同2.1%増となる一方、価格は円高方向へのシフトもあり、同2.2%減となる。

品目別にみると、自動車は半導体供給の安定などにより、台数は増加する。しかし、輸出額は円高進行に伴い2024年度比3.4%減になる見通し。一般機械は、原動機の減少傾向が続くものの、デジタル機器の増加やデータセンターの増設などによる半導体需要の高まりを受けて、半導体等製造装置が同10.0%増と伸びることを主因に一般機械全体でも同0.9%増となる。電気機器については、海外需要の回復により数量が増加し、同6.8%増になる見通し。中国の生産能力が拡大する化学製品はプラスチックを中心に輸出数量への影響も受け円高もあることから同4.5%減となる。

輸出については、海外の景気が緩やかに回復に向かうことから数量では緩やかな増加となる。一方で、円高進行に伴い価格が押し下げられることから、輸出金額では微減となる。中長期的には、欧州、中東における地政学リスクや、各国での保護主義の台頭に伴うサプライチェーンの変化も生じるが、一般機械や輸送用機器の需要は堅調に推移する。

2. 輸入

◆◆◆2024年度◆◆◆

2024年度の輸入額は、2023年度比2.9%増となる。数量・価格の内訳をみると、数量が同0.7%減少する一方、価格は同3.6%増加する。背景には円安進行があり、価格が輸入額全体を押し上げる。

品目別にみると、食料品が国内消費者の低価格志向や国産品回帰により需要自体は低調

なもの供給減少に伴う現地相場価格の上昇や為替相場の円安進行に伴い、同1.8%増となる。化学製品はジェネリック原薬の増加や欧州からの高価品が増える医薬品を中心に同4.3%増となる。原料別製品は、鉄鋼、非鉄金属、織物用糸及び繊維製品がいずれも増加し、同3.9%増となる。

多くの分野で円安により金額が増加する一方、鉱物性燃料は同2.5%減となる見通し。鉱物性燃料は猛暑による発電需要を受けたLNGの増加、国内製油所のトラブルや内航船不足による国内石油供給の不安定さといった増加要因があるものの、原子力発電所再稼働等の影響により基調としては減少傾向となる見込み。また、原油・LNG・石炭の国際価格は下落基調にあり、輸入額の押し下げ要因となる。輸送用機器は同0.8%減と微減の見通し。自動車は、国内市場の回復やEV補助金の影響で底堅く同4.4%増となるが、航空機類が機材の納入遅れのために同21.5%減と大幅に減少する。

◆◆◆2025年度◆◆◆

2025年度は、国内経済の緩やかな回復により輸入数量が2024年度比2.3%増と増加する一方、為替が円高方向に転換することから、価格は同5.6%減となり、輸入額は同3.5%減となる。

品目別にみると、鉱物性燃料が2024年度比7.2%減となり、全体を押し下げの見通し。国内需要についてはジェット燃料の回復がコロナ禍以降で続いていたが、2025年度には終息する

見通し。足元ではLNGの価格が下落する見通しとなっており、天候と原子力発電所の稼働状況による変動要因はあるものの、総じて減少傾向となる。化学製品は2024年度に膨らんだ輸入が減少し、同6.3%減となる。食料品は国内在庫が高水準であることや円高シフトによる価格の減少により金額が減少して、同5.5%減となる見通し。一般機械は2024年度並みの輸入を見込む。一方で、半導体等電子部品では産業機器向け製品の需要回復、データセンターをはじめとするITプラットフォームへの投資拡大、車載半導体の需要増などにより同5.2%増となる。また、原料別製品では、非鉄金属、織物用糸及び繊維製品が増加し、同2.0%増となる。

輸入については、2024年度までの円安進行により金額が上昇し、国内のインフレの一因となってきた。数量面では需要と国内景気との連動性が高いものの、国内における人口減少や生産活動の海外移転などの中長期トレンドの影響も無視できない要因となっている。また、地政学リスク、各国の政策変更リスクにより国際価格が急騰し、輸入金額を押し上げるリスクにも留意する必要がある。

V. 経常収支の見通し

◆◆◆ 2024年度 ◆◆◆

経常収支は29兆1,620億円の黒字となり、2023年度の26兆6,400億円から黒字が拡大する。内訳を見ると、輸出が大きく増加する一方で輸入は小幅の増加にとどまるため、貿易収支の赤字は1兆7,100億円と赤字幅が縮小する。サービス収支は訪日外国人観光客の増加の影響でインバウンド需要が拡大する一方で、デジタル赤字の拡大により3兆7,480億円の赤字となり、2023年度の2兆5,970億円の赤字と比べ、約1.2兆円の赤字拡大となる。第一次所得収支は、企業業績の回復や海外からの配当金送金の増加、円安の影響を受けて過去最高の38兆6,210億円となり、2023年度から約1.5兆円の上積みとなる。

◆◆◆ 2025年度 ◆◆◆

経常収支は、29兆9,610億円と2024年度から更に増加し、3年連続で過去最高を更新する見通し。貿易収支は、輸出が輸入を上回り1兆8,850億円の黒字となり、2020年以来5年ぶりの黒字転換となる。サービス収支では、インバウンド需要の増加が一巡する一方、デジタル赤字が拡大し、全体としては4兆930億円の赤字となり、赤字幅は2024年度より約3,500億円拡大する。第一次所得収支は、円高シフトの影響により、36兆2,330億円と前年から約2.4兆円の減少となるが、高水準を維持する。

お問い合わせ：一般社団法人日本貿易会 調査グループ
〒100-0013 千代田区霞が関三丁目2番1号 霞が関コモンゲート西館20階
Tel：03 (5860) 9374 e-mail：chosa@jftc.or.jp
https://www.jftc.or.jp/publications/assets/pdf/trading2025_20241206.pdf…HPより全文ご入手いただけます。



貿易投資関係情報

商品別見通し（輸出）

品目	2023年度 (実績)		2024年度 (見込み)				2025年度 (見通し)			
	10億円	伸び率%	上半期		下半期		10億円	伸び率%		
			(実績)	伸び率%	(見込み)	伸び率%				
総額	102,897	+3.7%	53,550	+6.6%	54,838	+4.1%	108,388	+5.3%	⇒ 108,192	▲0.2%
EX 01 食料品	1,126	▲2.9%	571	▲1.6%	489	▲10.3%	1,060	▲5.8%	⇒ 1,064	+0.4%
EX 02 原料品	1,662	+4.3%	880	+10.5%	881	+1.8%	1,761	+6.0%	↓ 1,702	▲3.4%
EX 03 鉱物性 燃料	1,488	▲34.4%	589	▲9.6%	600	▲28.3%	1,189	▲20.1%	↓ 1,100	▲7.5%
EX 04 化学製品	11,187	▲4.3%	5,973	+9.3%	5,876	+2.7%	11,849	+5.9%	↓ 11,320	▲4.5%
EX 05 原料別 製品	11,677	▲1.8%	6,166	+5.6%	6,095	+4.4%	12,261	+5.0%	⇒ 12,318	+0.5%
鉄鋼	4,510	▲5.3%	2,260	▲1.7%	2,203	▲0.3%	4,463	▲1.0%	↓ 4,250	▲4.8%
非鉄金属	2,468	▲0.9%	1,416	+14.6%	1,414	+14.8%	2,831	+14.7%	↑↑ 3,127	+10.5%
織物用糸・ 繊維製品	802	+3.2%	420	+6.8%	410	0.3%	827	+3.0%	⇒ 830	+0.4%
EX 06 一般機械	18,631	▲2.0%	9,511	+4.5%	9,488	▲0.5%	18,999	+2.0%	⇒ 19,179	+0.9%
原動機	2,941	+2.9%	1,445	▲1.5%	1,395	▲5.3%	2,840	▲3.4%	↓ 2,614	▲8.0%
半導体等 製造装置	3,655	▲9.7%	2,227	+35.6%	2,200	+9.3%	4,427	+21.1%	↑↑ 4,870	+10.0%
EX 07 電気機器	17,074	▲0.9%	9,054	+9.1%	9,324	+6.3%	18,378	+7.6%	↑ 19,634	+6.8%
半導体等 電子部品	5,606	▲1.5%	3,117	+16.5%	3,189	+8.8%	6,306	+12.5%	↑ 6,760	+7.2%
電気計測機器	1,906	▲2.7%	997	+6.6%	1,022	+5.4%	2,020	+6.0%	↑ 2,102	+4.1%
EX 08 輸送用 機器	24,470	+23.9%	12,299	+3.7%	13,776	+9.3%	26,076	+6.6%	↓ 25,288	▲3.0%
自動車	17,877	+30.2%	8,979	+2.7%	9,754	+6.8%	18,733	+4.8%	↓ 18,087	▲3.4%
自動車の部分品	4,035	+8.2%	2,002	+1.2%	2,102	+2.2%	4,104	+1.7%	↑ 4,505	+9.8%
船舶	1,387	+15.3%	769	+25.1%	783	+1.4%	1,552	+11.9%	↓ 1,492	▲3.9%
EX 09 その他	15,583	+6.5%	8,506	+11.3%	8,309	+4.6%	16,814	+7.9%	↓ 16,586	▲1.4%
科学光学機器	2,562	+1.1%	1,362	+8.1%	1,325	+1.8%	2,688	+4.9%	↑ 2,827	+5.2%

※2024年度上半期の実績は確報ベース、金額は表示単位未満を四捨五入しているため計算が合わないことがある。

※「↑」は前年度比増加(10%未満)、「↑↑」は増加(10%以上)、「↓」は減少(10%未満)、「↓↓」は減少(10%以上)、「⇒」は横ばい(前年度比±1%未満)を表している。

コメント	
2024年度	2025年度
4年連続で増加。世界経済の減速により数量は減少するものの、円安効果により幅広い品目で輸出価格が上昇する。比較可能な1979年以降で過去最高となる見込み。	世界経済が堅調に推移する中、世界貿易は回復傾向に向かうことから、数量では緩やかな増加となる。一方、円高により価格は押し下げられることから、輸出金額では微減となる。
23年8月以降にALPS処理水の影響で中国が日本産水産物の輸入を禁止していることから、ホタテ貝などの魚介類を中心に輸出は減少する見込み。24年9月に日中両国が輸入再開で合意したものの、具体的な時期などは不透明。	農林水産物・食品の輸出額目標(25年までに2兆円、30年までに5兆円)の達成に向けた政府支援が追い風となるものの、海外景気の減速による需要の鈍化や円高シフトが下押し要因になり、金額は横ばいとなる見通し。
23年度比で増加となる見込み。上位品目については以下の通り： 金属鉱及びくず：主要仕向け地の需要弱さなどで数量が伸び悩むも、円安が価格の下支え要因となり、23年度比で金額は横ばいとなる見込み。 生ゴム：中国を中心に需要が弱含むも、原料価格上昇分の転嫁と円安の影響で金額では23年度比で増加する見込み。	24年度比で減少となる見通し。上位品目については以下の通り： 金属鉱及びくず：主要仕向け地の需要次第で数量が回復する可能性はあるが、円高が価格の下押し要因となり、金額は横ばい圏にとどまる見通し。 生ゴム：中国需要後退と原料価格下落に伴い、金額は減少する見通し。
下半期に関しては23年度下半期に国内製油所の閉鎖があった点や、一部元売りで定期修理が予定されており、国内の輸出余力は減少見込み。	恒常的な石油製品需要の低下と国内供給の不安定さに加え、中国の製油所増設に伴う極東域での石油精製能力の増加により、輸出需要は減少していく見通し。
プラスチックや有機化合物は中国の生産能力拡大の影響が懸念されるが、23年度下半期からのやや落ち着いた状況が継続すると見込む。医薬品は一部高価な品目の押し上げ効果大きい。また、化粧品類は減少から脱せず、無機化合物は横ばい圏が続く見込み。	中国の生産能力拡大の影響の懸念はなくなり、相対的にプラスチックへの影響の拡大が懸念され、さらに円高が輸出価格を押し下げの影響が加わる見通し。医薬品は一部の高価な品目の押し上げ効果の剥落に加えて円高で輸出価格が低下する。
輸出額は、増加する見込み。主要な品目では、鉄鋼が横ばいとなる一方で、非鉄金属や織物用糸及び繊維製品が増加する。	輸出額は、横ばいとなる見通し。主要品目をみると、鉄鋼が減少する一方で、非鉄金属が引き続き増加し、織物用糸及び繊維製品は横ばいとなる。
金利上昇もおもしとなり、製造業や建設業などの海外需要が力強さを欠く中で、日本からの輸出の数量が23年度から小幅に減少する一方で、価格もおおむね横ばい圏を推移すると想定されるため、金額は小幅に減少する見込み。	世界経済が緩やかに成長する中で鉄鋼需要も緩やかに回復するため、数量は小幅に増加する。一方で、ドル建て価格は24年度並みで推移するものの、為替相場が円高・ドル安方向になる前提であるため、円建て価格が低下し、輸出金額は減少する見通し。
非鉄金属の輸出額は、増加する見込み。非鉄金属のうちアルミニウムは、主要輸出入のアジアで、自動車や建設向け需要の回復が見込み難いため、輸出額は横ばいとなる。銅は、価格が高水準を維持する中で、自動車の電装化や半導体向けなど幅広い用途で利用される中で数量が増加するため、輸出金額も増加する見込み。	非鉄金属の輸出額は、増加する見通し。アルミニウムは、アジア地域の自動車や建設向け需要の緩やかな回復を背景に、輸出金額は23年度から緩やかに増加する。また、銅及び同合金は、ドル建て価格の上昇の一方で為替相場がおもしとなり、価格は横ばい圏を推移する中、数量が増加するため、輸出金額は引き続き増加する見通し。
米国の堅調な需要を背景に、23年度比増加となる見込み。	米国向けが堅調を維持する一方で中国や欧州向けが鈍化し、24年度比は横ばいとなる見通し。
半導体等製造装置がアジア向けを中心に大幅増となる一方、原動機に含まれる内燃機関(自動車用エンジン)の減少が加速。他方、円安進行に伴う円ベース輸出価格の上昇もあり、全体として金額ベースで増。	原動機の減少傾向が続く一方、半導体等製造装置の増加が続くため、全体として金額ベースで横ばい。
車両用原動機(内燃機関)が減少する一方で航空機エンジンなどが増加。円ベース輸出価格は円安に伴い小幅上昇。	車両用原動機の減少が続く。また、円ベース輸出価格は円高進展に伴い小幅下落。
下半期にかけて、半導体市場の緩やかな回復が継続し、生成AIなどのデータセンター需要の増勢が継続する中で、中国向け輸出の伸び率に一服感が見られるものの、引き続き堅調を保つため、輸出額は堅調に増加する見込み。	引き続き生成AIなどデータセンターなどの需要が堅調に推移する一方で、中国向けを中心に実需を上回る部分の調整もあり、増加傾向が続くものの、伸び率は24年度から縮小する見通し。
24年度下半期にかけて減速の見込み。重電機器は、部材不足の影響が徐々に解消し、24年度下半期にかけて増勢が加速する見込み。	24年度比プラス基調の見通し。米国など海外景気の持ち直し輸出数量を押し上げ、円高の進行が金額面のおもしとなる見通し。
最終製品需要の低迷と顧客企業の在庫調整に伴い数量は伸び悩む。しかし、主要製品のうちメモリの市況が23年度中に底打ちしたのち、回復局面に入ったことから、金額ベースでは23年度を上回る見込み。	生成AIの普及に伴うデータセンター向け投資の拡大、消費者向けAI機器の増加、旧式OSのサポート終了に伴うPCの買い替え需要などにより、24年度比で金額が増加する見通し。
輸出金額は23年度比プラス転換の見込み。24年度下半期にかけては、米景気減速も、欧州景気底入れと中国景気下げ止まりで輸出数量は23年度比プラスを維持。輸出価格は、円安修正の影響で下落する見込み。	輸出金額は24年度年比プラスも、プラス幅は縮小する見通し。米景気再加速で輸出数量は堅調が見込まれるものの、円安修正による輸出価格の下落によって輸出金額の伸びが抑えられる見通し。
輸送用機器は円安などの影響により自動車を中心に堅調で、23年度比で増加、自動車関連は、下半期は全体として緩やかな回復基調となり、金額は増加、船舶は、新造船の24年度数量は23年度を下回るが、金額は円安などの影響で23年度比増加の見込み。	輸送用機器は円高進行などの影響により24年度比で減少、自動車は輸出台数が増加するも、円高進行で輸出額は微減、部品は新興市場での需要拡大などで増加、船舶は、新造船の25年度数量が24年度を下回ることから、輸出金額は24年度比減少の見通し。
上半期は認証不正の影響やEUの景気低迷が下押し要因となったものの、円安が相殺し金額は微増。 下半期は北米やEUなどで需要が持ち直し、全体として緩やかな回復基調となり、金額は通年で23年度比増加となる見込み。	米中の経済減速の影響を受けると、半導体供給の安定や第二次ランプ政権によるIRAの修正などを受けて、輸出台数は増加。 一方、輸出額は円高進行に伴い、24年度比で微減となる見通し。
下半期はアジア向けの減少傾向が継続するも、米国や欧州向けが堅調に推移。また円安の影響もあり、23年度比で輸出額は微増。	アジアや中東など新興市場での部品需要の拡大に支えられ、また電動化の進展による電気自動車(EV)向け関連部品の需要も増加が期待されるなど安定的な成長の見通し。
新造船の24年度輸出予定隻数は23年度を下回るが、金額は円安などの影響で23年度比増加の見込み。	新造船の25年度輸出予定隻数が24年度を下回ることから、輸出金額は24年度比減少の見通し。
円安修正や米景気減速の影響から、24年度下半期に伸び悩む見込み。	円安修正に加えて、23年度の金相場急騰の反動も見込まれることから、24年度比減少となる見通し。
スマートフォンや医療検査機器向けの需要は底堅い一方で、中国経済の低迷などにより輸出量は小幅な減少となる見込み。一方、価格は円安の影響を受け上昇基調にあり、輸出額では23年度から増加する見込み。	スマートフォンや医療検査機器向けの需要は引き続き堅調に推移すると見られ、数量の増加が予測される。円高基調となり商品価格は低下するものの、輸出額では24年度から増加する見通し。

貿易投資関係情報

商品別見通し（輸入）

品目	2023年度 (実績)		2024年度 (見込み)				2025年度 (見通し)			
	10億円	伸び率%	上半期		下半期		10億円	伸び率%		
			(実績)	伸び率%	(見込み)	伸び率%				
総額	108,951	▲10.2%	56,663	+6.8%	55,459	▲0.8%	112,122	+2.9%	↓ 108,221	▲3.5%
IM 01 食料品	9,364	▲2.9%	5,154	+7.6%	4,381	▲4.3%	9,535	+1.8%	↓ 9,008	▲5.5%
魚介類	1,819	▲8.3%	926	+2.8%	939	+2.3%	1,865	+2.5%	↓ 1,837	▲1.5%
肉類	1,868	▲2.8%	1,100	+13.6%	946	+5.2%	2,046	+9.5%	↓ 1,986	▲2.9%
IM 02 原料品	7,198	▲10.9%	4,166	+12.3%	3,689	+5.8%	7,855	+9.1%	↓ 7,732	▲1.6%
鉄鉱石	1,684	▲0.7%	905	+9.8%	761	▲11.5%	1,666	▲1.1%	↓ 1,567	▲5.9%
非鉄金属鉱	2,453	▲3.9%	1,455	+11.2%	1,355	+18.4%	2,809	+14.5%	↑ 2,867	+2.0%
IM 03 鉱物性燃料	26,020	▲26.3%	12,466	+3.1%	12,900	▲7.4%	25,366	▲2.5%	↓ 23,543	▲7.2%
原油及び粗油	11,294	▲18.4%	5,391	+3.4%	5,446	▲10.4%	10,837	▲4.0%	↓ 9,830	▲9.3%
石油製品	2,674	▲8.4%	1,485	+22.2%	1,900	+30.2%	3,385	+26.6%	↑ 3,500	+3.4%
LNG	6,055	▲31.8%	2,915	+9.8%	2,908	▲14.5%	5,823	▲3.8%	↓ 5,254	▲9.8%
LPG	859	▲17.0%	416	+14.4%	578	+16.5%	993	+15.6%	↓ 905	▲8.9%
石炭	5,085	▲40.7%	2,234	▲14.6%	2,043	▲17.2%	4,277	▲15.9%	↓ 4,007	▲6.3%
IM 04 化学製品	11,335	▲13.9%	6,095	+6.8%	5,732	+1.8%	11,827	+4.3%	↓ 11,082	▲6.3%
IM 05 原料別製品	8,943	▲11.8%	4,720	+4.1%	4,574	+3.8%	9,294	+3.9%	↑ 9,481	+2.0%
鉄鋼	1,295	▲12.2%	695	+6.4%	684	+6.6%	1,379	+6.5%	⇒ 1,380	+0.1%
非鉄金属	2,402	▲23.1%	1,282	+3.8%	1,211	+3.7%	2,492	+3.8%	↑ 2,566	+2.9%
織物用糸・繊維製品	1,144	▲10.3%	590	+2.1%	582	+2.8%	1,172	+2.5%	↑ 1,188	+1.3%
IM 06 一般機械	9,734	+2.0%	5,525	+17.1%	5,316	+6.0%	10,840	+11.4%	⇒ 10,844	+0.0%
電算機類(含周辺機器)	2,568	▲5.0%	1,661	+39.2%	1,916	+39.4%	3,578	+39.3%	↑↑ 3,965	+10.8%
IM 07 電気機器	17,647	▲0.6%	8,635	+2.7%	8,980	▲2.8%	17,615	▲0.2%	↓ 17,137	▲2.7%
半導体等電子部品	4,567	▲9.3%	2,067	▲10.0%	2,214	▲2.5%	4,281	▲6.3%	↑ 4,502	+5.2%
通信機	3,840	▲0.3%	1,903	+17.2%	1,908	▲13.9%	3,811	▲0.7%	↑ 3,948	+3.6%
IM 08 輸送用機器	4,365	+22.8%	2,143	+3.7%	2,187	▲4.8%	4,329	▲0.8%	↑ 4,454	+2.9%
自動車	1,937	+21.0%	954	▲2.8%	1,068	+11.8%	2,022	+4.4%	↑ 2,108	+4.2%
航空機類	754	+81.2%	361	+28.1%	230	▲51.2%	591	▲21.5%	↑ 598	+1.1%
IM 09 その他	14,345	+1.6%	7,760	+10.5%	7,701	+5.1%	15,461	+7.8%	↓ 14,941	▲3.4%
衣類・同付属品	3,574	▲1.5%	1,845	+3.4%	1,824	+1.9%	3,669	+2.6%	↑ 3,756	+2.4%
製品輸入	66,369	▲2.8%	34,877	+7.5%	34,489	+1.7%	69,366	+4.5%	↓ 67,939	▲2.1%

※2024年度上半期の実績は9桁速報ベース、金額は表示単位未満を四捨五入しているため計算が合わないことがある。

※「↑」は前年度比増加(10%未満)、「↑↑」は増加(10%以上)、「↓」は減少(10%未満)、「↓↓」は減少(10%以上)、「⇒」は横ばい(前年度比±1%未満)を表している。

※魚介類は貿易統計の概況品目「魚介類及び同調製品」、肉類は「肉類及び同調製品」を指す。

コメント

2024年度	2025年度
<p>一般機械、原料品などの要因により23年度より増加し、3年連続で100兆円超に、22年度に次ぎ史上二位の水準。食料品、原料品、化学製品、原料別製品、一般機械など、円安効果もあり幅広い品目で増加となる。一方、鉱物性燃料、電気機器、輸送用機器は減少となる。</p>	<p>国内経済の回復に伴い数量は増加する一方、原油価格の低下に加え、円高により価格は低下する。輸入総額は24年度から減少するが、4年連続で100兆円超となる。</p>
<p>物価高に伴う消費者の低価格志向(①より安価な品目・部位への需要シフト、②割高な輸入品から国産へへの需要シフト)が続いており、国内消費の動きは鈍い。一方、供給減少に伴う現地相場高が円安により価格が上昇し、金額もやや増加する見込み。</p>	<p>国内のインフレ鈍化は消費の追い風となる一方、国内在庫が高水準であることから数量の増加は限定的。供給減少に伴い現地相場が高止まりする一方、緩やかな円高シフトにより価格は低下し、金額は減少する見込み。</p>
<p>上半期は物価高の影響で量販店などにおける消費が鈍かった。下半期も供給量の減少に伴い現地相場の上昇が続くことから、金額は増加する見込み。</p>	<p>緩やかな円高シフトにより価格は低下する一方、供給減少の影響により数量の増加も限定的となり、金額は減少する見込み。</p>
<p>上半期は物価高の影響で高価格な牛肉からより安価な豚肉や鶏肉への需要シフトがみられた。下半期も牛肉を中心に飼育頭数の減少に伴い現地相場高が続くことから価格が高止まりし、金額も増加する見込み。</p>	<p>国内在庫が高水準であることから数量の増加は限定的。飼育頭数の減少局面に伴い現地相場高が続くものの、緩やかな円高シフトにより価格が低下し、金額も減少する見込み。</p>
<p>原料品の輸入額は、増加する見込み。鉄鉱石は、上半期に自動車生産の影響を受けた数量が下半期にかけて持ち直すものの、中国不動産対策への期待が弱落した価格が低下し、通年の輸入額は横ばいとなる。非鉄金属のうち銅鉱は、定期修理の影響が小さい中、需給のひっ迫から価格が高止まりし、輸入額が増加する見込み。</p>	<p>原料品の輸入額は、減少する見込み。鉄鉱石は、国内外の緩やかな成長から数量が横ばい圏で推移する一方、為替相場の影響から価格が低下するため、輸入額は減少する。銅鉱は、国際市場の需給のひっ迫が継続し、価格が高止まりする中、定期修理の集中年であるため、数量が減少し、輸入金額も減少する見込み。</p>
<p>上半期の品質不問題から一部自動車の生産・出荷が停止された影響が弱落して、下半期には数量が小幅に持ち直すものの、円高・ドル安ともに、中国の不動産対策への期待感から過度に上昇していた価格が実需を反映して低下する。輸入金額は、上半期の増加分が下半期に調整され、通年では23年度からやや減少すると見込まれる。</p>	<p>国内外の経済の緩やかな成長が続く中、数量はおおむね横ばい圏となる一方、ドル建て価格が24年度下半期から回復する中、為替相場が高ドル安方向に振れる前提であり、円建て価格が低下するため、輸入金額は減少する見込み。</p>
<p>非鉄金属のうち約7割を占める銅鉱では、製鉄所の定期修理が24年度後半に予定されているため、数量は上半期から減少する。国際市場の需給のひっ迫を背景に、価格は上半期から高止まり、下半期の輸入金額は減少するものの、上半期の増分もあり、24年度通年では増加する見込み。</p>	<p>為替相場が高ドル安方向に進むと想定される半面、国際市場の需給がひっ迫した状態が続き、ドル建て価格が堅調であるため、円建て価格は横ばい圏を推移する。一方で、製鉄所の2年に1度の定期修理の集中年であるため、数量が24年度から減少する影響が相対的に大きく、輸入金額は24年度から小幅に増加する見込み。</p>
<p>猛暑による発電向けLNG増、国内生産・ロジックによる石油製品の輸入増もあるが、基調として鉱物性燃料の需要減が続く。</p>	<p>25年度の輸入数量は全体として減少傾向が継続、価格は円高の影響もあり低下。</p>
<p>24年度の国内需要は新型コロナウイルスの回復が一段落したことから23年度比微減見込み。原油価格(ドルベース)については、中国の成長鈍化-EV化進展による需要減、非OPECプラスの生産増、OPECプラスの減産増、需給小など需給緩和傾向が強まる一方で、ウクライナ・中東情勢の不安定化など地政学リスクの高まりが市況を支える格好。</p>	<p>25年度は国内需要に関しては新型コロナウイルスで需要大幅減少となったジェット燃料の持ち直しが一巡する見込みであることから、原油の需要減少が再加速する見込み。原油価格(ドルベース)に関してはOPECプラスを中心とした生産動向と中東情勢に左右されるものの、両要因のバランスが取れた状態が続く見込み。</p>
<p>国内製油所のラブラ及び内航船不足による国内供給不安定に加え、輸入採算が好調なことも相まって輸入数量は23年度比増加の見込み。</p>	<p>国内需要は若干の減少と予想されているものの、国内製油所の老朽化による供給不安は継続し、24年度比で輸入数量は大きく減少しない見込み。</p>
<p>数量・長引く猛暑の影響も、発電需要が徐々に回復していけば、LNG輸入が増える可能性がある(貯・経済見直しは弱く、原発再稼働(女川11月〜・浜根12月〜)により部分的に同需要はオフセットされる可能性あり)。</p>	<p>数量：熱源需要を含めて堅調で、ほぼ横ばい(LNGは、水素・再生エネルギーの代替エネルギー現開発が進む前の段階の電力需要増に対応するバックアップ用の分散型電源として、当面の間重要な役割を果たす)。期中の需要の増減は、主に天候と原発状況(再稼働・トラブル)に依存。</p>
<p>価格：油価変動(下落)による影響を見込み。</p>	<p>価格：油価変動(下落見直し)による影響を見込み。</p>
<p>数量：上半期は全体的に需要漸減となったが、下半期は冬の需要期を迎えると共に、堅調な経済状況に伴う工業用需要の増加が見込まれる。</p>	<p>数量：世帯数減少・機器高効率化により家庭用需要は漸減が続くものの、行政向け空調需要の伸びに伴う家用需要増、A重油などからの燃料転換を含めた工業用需要増、LNGグリーン化を背景とした都市ガス増熱用需要の微増傾向により、LPG全体では24年度対比ほぼ横ばいの見込み。</p>
<p>価格：冬場の需要期到来によるマーケットাই化がフルレの円安に支えられ見込まれる一方、上半期のバネマ運の通航制限に伴う米回積・カーン回積の長期距離化や円安に伴うアラート高騰の反動もあり、下半期価格(単価)は上半期対比下落する見込み。</p>	<p>価格：円ベース輸入価格は前提条件の円高により下落する。</p>
<p>石灰の輸入額は減少する見込み。原料炭では、国内の鉄鋼需要の低迷に伴って数量が減少する一方で、国際的に少ない需要を反映して価格が低下するため、輸入金額が減少する。一般炭では、発電関連の需要が減少する中、国際価格も低下し、輸入金額も減少する見込み。</p>	<p>石灰の輸入額は、引き続き減少する見込み。原料炭では、高炉閉鎖の影響から数量が減少し、国際価格は回復する一方で、為替相場がおもしくなって、輸入金額は横ばい圏に減少する。一般炭では、原子力発電所の再稼働などから数量が減少する一方で、為替相場の影響から価格が低下し、輸入金額は減少する見込み。</p>
<p>有機化合物やプラスチックは、中国の生産能力拡大や日本国内の設備再編の影響が懸念されるが、今のところ一部低価格品を除く輸入圧力の高まりは限定的。医薬品の輸入金額は22年度をピークに減少傾向にあるが、24年度は一部特定国からの輸入の増加と上半期一部高価品目が増加した押し上げ効果が大い。</p>	<p>24年度は傾向は変わらないが、円高や原油価格の低下により輸入金額は減少する見込み。また、医薬品で24年度に膨らんだ一部特定国からの輸入が減少する見込み。</p>
<p>輸入額は、増加する見込み。主要品目のうち鉄鋼、非鉄金属、織物用品及び繊維製品はいずれも増加する。</p>	<p>輸入額は、引き続き増加する見込み。主要品目では、鉄鋼が横ばいとなる一方で、非鉄金属や織物用品及び繊維製品は増加する。</p>
<p>国内の鉄鋼生産能力が23年度に削減された一方で、中国や韓国、台湾などの輸入量が増加する傾向が続いている。価格は23年度並みで推移するため、輸入金額は23年度から増加する見込み。</p>	<p>国内需要が緩やかに回復する中で、中国や韓国、台湾からの輸入傾向が続き、輸入数量は24年度から横ばい圏で推移する。また、日本経済の緩やかな成長を踏まえると価格もおおむね24年度並みとなるため、輸入金額は横ばいとなる見込み。</p>
<p>非鉄金属の輸入額は増加する見込み。非鉄金属のうちアルミニウムは、製品需要を反映して数量が底堅く推移する中、中国景気対策への期待や地政学リスクの高まりから輸入価格が上昇傾向にあるため、輸入金額は増加する。白金族は、在庫がおもしくなる数量が横ばいで推移する中、価格が下げ止まりし、輸入金額は横ばいの見込み。</p>	<p>輸入額は、増加する見込み。白金族では、為替要因で円建て価格が低下し、数量は在庫調整によって小幅に減少する一方で、輸入金額も減少する。アルミニウムでは、製品需要の弱さのみならず数量のおもしくなる一方、ドル建て価格の上昇などを背景に価格が上昇するため、輸入金額は増加する見込み。</p>
<p>海外の生産コスト上昇や為替円安の影響で輸入価格は上昇傾向にある一方で、国内需要を背景に数量も増加することから、23年度比増加となる見込み。</p>	<p>24年度は生産コスト増加により輸入価格が上昇する一方で、国内需要は維持されることから、24年度比増加となる見込み。</p>
<p>一般機械の分野である工作機械の輸入額は23年度比▲15%程度の動きが続く。産業機械は24年6月までの国内が極端に高く、それ以降は極端に低い。これを考慮し、全体では、24年内を23年度比+5%とし、産業機械のサイクルが戻る25年1-3月を+7%と置いた。</p>	<p>25年度は工作機械と産業機械のサイクルを考慮し4-6月を24年度比3%程度プラスとし、7-9月期を24年度比▲3%、それ以降を24年度並みにする。</p>
<p>大幅な増加に転じる見込み。価格が円安の一方で軟調となったものの、コロナ禍の大幅需要の買い替えや一部OSのサポート終了前の買い替え需要、さらには全国の小中学校に配備した「GIGAスクール」端末の更新も出始めることから、数量が24年度下半期にかけて増加に向かう見込み。</p>	<p>引き続き増加も、増加ペースはやや鈍化する見込み。価格は円安修正で緩やかに低下する一方、OSのサポート終了前の買い替え需要の反動から、数量が24年度下半期にかけて減少する見込み。</p>
<p>モーターインバーターといった産業用汎用は低価格帯の状況が続いており23年度比▲10%程度縮小と見込み。発電機や配電盤などの重電機器は足元でマイナスからプラスに転じ、全体では23年度並みで横ばい。家電などの民生用はコロナによる先食い需要の影響をしばらくは微減が続く見込み。</p>	<p>産業用汎用は半導体製造機械の需要回復が先に進むと見込み24年度比▲10%、重電機器は24年度並み。民生用は24年度比▲3%程度を見込み。これらを総計すると▲2.7%となった。</p>
<p>最終製品市場の停滞、および顧客企業の在庫調整に伴い、産業機器向け製品などで需要が伸び悩み、数量・金額共に減少となる見込み。</p>	<p>産業機器向け製品の需要回復、データセンターをはじめとするITプラットフォームへの投資拡大、自動車の高性能化に伴う半導体需要増などにより、24年度から数量面で回復する見込み。</p>
<p>23年度は需要を大きく左右するスマートフォンが10月発売となり下半期に偏りみられるが、24年度は9月発売だったため上半期と下半期の数量が分散。これを考慮し、年度通期では微減にとどまる。</p>	<p>25年度はスマートフォンの買い替えサイクルの谷間となり、数量・為替ともに減少する見込み。しかし、海外の生産コストが販売価格に上乗せされるため、全体としては24年度比+3.6%と予想。</p>
<p>自動車関連の需要は底堅く、一部供給遅れの影響で輸入量は減少するも円安の影響から輸入額は増加する見込み。航空機類は、生産上の問題による機材納入遅れの影響などから減少する見込み。輸送用機器全体としては、下半期は減少基調。</p>	<p>自動車関連は円高基調に加え、EVへの税優遇や補助金などの継続により、数量・輸入金額ともに増加の見込み。航空機類は、生産上の問題による機材納入遅れの影響が継続するも24年度比では横ばいとなる見込み。輸送用機器全体としては、24年度比で増加となる見込み。</p>
<p>国内市場の回復やEV補助金などにより需要は底堅い一方で、車両供給遅れの影響などにより輸入量は小幅な減少となる見込み。一方、価格は円安の影響を受け上昇基調にあり、輸入額は23年度から増加する見込み。</p>	<p>欧米や中国の高級車や電動車を中心に国内市場は堅調に推移すると予測。円高基調に転じる予測に加え、政府によるEVへの税優遇や補助金の効果と相まって、台数、輸入金額ともに24年度より増加する見込み。</p>
<p>生産上の問題による機材の納入遅れの影響、23年度の貨物機輸入の反動で減少。</p>	<p>旅客機を中心に新造機材の需要は伸びているが、生産上の問題による機材納入遅れの影響が続く。</p>
<p>繊維製品(除く衣類など)は、コロナ禍後の落ち込みからの持ち直しが遅れていた品目も増加に転じる見込み。特殊取扱品は円安に加えて23年度上半期の全輸入価格の水準が低かった反動で増加する。</p>	<p>繊維製品(除く衣類など)は、日本の景気回復に加えて円高で価格優位性が高まり数量は増加が続くが、円高による価格低下の影響が上回る見込み。特殊取扱品は、円高に加えて全価格の低下の影響で減少する見込み。</p>
<p>為替円安や原材料価格上昇の影響で価格は上昇傾向。価格・上昇に伴う需要の減少はあるものの、国内アパレル市場の回復により、数量も増加方向の見込み。</p>	<p>原材料価格上昇の影響で価格は上昇傾向。価格・上昇に伴う需要の減少はあるものの、国内アパレル市場の回復により、数量も増加方向の見込み。</p>

51年目を迎えた「貿易見通し」

貿易動向調査委員会の「わが国貿易収支、経常収支の見通し」（通称：貿易見通し）は、1974年に作成を開始以来、今年度（2024年度）で51年目、延べ70回目の発表です。

当委員会の「貿易見通し」は、一般的にシンクタンク等の経済見通しがマクロ的な手法で作成されるのとは対照的に、「ミネラルウォーターから通信衛星まで」取り扱っている商社ならではのミクロのアプローチで作成している点が最大の特徴です。具体的な作業を担当する貿易見通し作成専門委員会（7社）のメンバーが、世界経済の行方など前提となる方向性を検討した上で、輸出入をそれぞれ大きく9分類し、さらに品目ごとに細分化して営業部門の方々や業界関係者にヒアリングを実施、金額を積み上げて輸出入の総額を算出します。その一方で、マクロ的な手法で分析予測も行っており、ミクロとマクロの両面から作成したものを最終的に貿易動向調査委員会（13社）で検討して発表しています。

当会ウェブサイト (<https://www.jftc.or.jp/publications/>) でも公開しておりますので、併せてご活用いただければ幸いです（PDFダウンロード可能）。見通し作成にご協力くださった皆さまに心より感謝申し上げます。（調査グループ）

白鳥泰彦委員長（株）双日総合研究所 情報調査室長兼調査グループ長よりひとこと

今回の貿易見通しでは、コロナ禍後の世界経済の姿が一つのポイントになりましたが、世界経済は現在のディスインフレからソフトランディングに向かって推移し、世界貿易は回復に向かうというメインシナリオを描いています。世界的な自動車と半導体の需要増と日本国内の鉱物性燃料の需要減などにより、貿易収支は大きく改善する見込みです。サービス収支は、デジタル赤字の影響で赤字幅が拡大しますが、第一次所得収支の拡大を主因に経常収支は過去最高となります。貿易収支、国際収支は、日本経済の写し鏡であり、外部要因、内部要因が複雑に絡み合っていますが、これらをひもとくことは、現在の日本経済を見つめ、未来を見通す大きなヒントになります。そのような視点で、本見通しをご活用いただけると幸いです。最後に、商品別見通しの作成に関わった委員の皆さま、各社のヒアリングにご協力いただきました社内外の皆さま、日本貿易会の事務局の皆さまのご尽力のおかげで51年目となる今回の見通しを発表することができました。この場をお借りして深く御礼申し上げます。



第56回貿易見通し作成専門委員会開催風景